

千二の子



HPも
チェック!



吹田市立千里第二小学校 学校だより
令和6年(2024年) 特別号

学校教育目標 豊かな心を持ち、たくましく生きる力を身につけ、
主体的に行動する子どもの育成 —自主協同—

令和6年度学校教育自己診断の結果と考察

平素より、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、保護者の皆様と児童を対象に実施した学校教育自己診断について、結果の集計及び分析を行いました。貴重なご意見ありがとうございました。下記の通りご報告いたします。

今年度の保護者アンケートは、昨年度までの紙でのマークシート形式を改め、「児童のタブレットから、児童1人につき1回答」で Microsoft Forms による回答形式で実施しました。回答数は661と、昨年度に比べて回答率が低い結果となりました。以下に報告する回答内容に対する分析とともに、来年度に向けて、回答率向上のための実施方法や時期の検討も進めてまいります。ご協力ありがとうございました。

記

【保護者自由記述のまとめ・回答】

学校行事(22名)

■参観について。学年別にするなどの工夫をしていただきました。プール参観があれば嬉しいです。(5名)

→→→ 兄弟の多いご家庭もゆとりを持って参加いただけるよう、参観は2学年ずつにしています。プール参観については、プールのスペースの問題があります。

■運動会について。上級生が下級生をお世話してくれる形も、先生方には手間がかかるかと思いますが、下級生が憧れを持つことにつながり、子供にとって貴重な経験だと感じました。これからは観る態度も指導していただきたいと思いました。(4名)

→→→ 異学年が交流することで、上級生、下級生のそれぞれに学びがあります。運動会の得点についてはさまざまな意見があると思います。得点をつけているのは目的ではなく手段ですので、たとえばチームとして勝ちたい、じゃあ勝つためにどんな作戦を立てようか、とい

った場合に、学びとつなげるようにしています。子ども・保護者の見る姿勢については、ご意見を参考しながらよりよい形を検討していきます。

■行事の日程について。変更は早めにお知らせしてほしいです。(4名)

→→→ 主な行事の予定日は、4月末ごろ発行する学年だよりでお知らせしており、およその通りになりますが、さまざまな要因から変更することがあります。変更が決まり次第、さくら連絡網等でお伝えします。

■学校公開を再開してほしいです。(2名)

→→→ 新型コロナの警戒期間は学校公開をすることができませんでした。再開を望む声がある一方で、かつての保護者から、学校に行く回数が多すぎるとのご意見をいただいたこともあります。さまざまな意見を参考に、学校規模等も含めて現状を鑑みて検討をします。

■音楽会について。保護者の招き方。後日ビデオ撮影したものを見られるようにしてほしい。(2名)

→→→ 児童数増加により、児童を二日間に分けて音楽会を行いました。保護者の方には児童の校内音楽会の前日に学年ごとに見ていただきました。来年度も児童と別日に保護者参観の音楽会を実施する予定です。ビデオ撮影については検討します。

■修学旅行のコース(広島、宮島)、内容(他校でスキー合宿がある)について。(2名)

→→→ 船舶以外の交通手段がない宮島は、体調を崩した児童が出たときに対応が難しいことから場所の見直しを行い、現在の場所に変えた経緯があります。宮島は修学旅行にふさわしい場所ですが、修学旅行では宿泊施設の確保が必須であり、施設が大人数収容可能であること、小学校の修学旅行の対応に慣れていること、医療機関が近いこと、予約が確実にとれることなど総合的に判断し決めていく必要があります。

吹田市でもかつてはいくつかの学校がスキーに出かけていましたが、スキーを取りやめ、別のものに切り替えてきた学校が多いです。スキーは天候に大きく左右され、雪が少なくて困ったり、逆に猛吹雪で困ったりするなど、せっかく行っても予定していたことができない問題がありました。特に最近では、地球温暖化の影響を受け、雪が少ないことが大きな課題になっています。

■遠足で予備日が休園日だった。(2名)

→→→ 事前確認を怠り、当日に行先を変更することがありました。今後このようなことがないように複数名で確認します。

■3学期にも個人懇談をお願いしたいです。(1名)

→→→ 吹田市内の他校の状況からも年2回の個人懇談は妥当な回数だと考えます。個人懇談の日でなくても、お話しされたいときにはご遠慮なく担任に相談してください。

先生、授業（22名）

■担任の先生は子供と真摯に向き合ってください、子どものことをよく見、理解しようとしてくださる想いをお話をさせていただくと伝わってまいりますので、安心してお任せできると感じております。

大きなトラブル等では複数の先生方が連携して対応してくださるので、心強いです。

子どもの自主性を重んじてくれているなどいつも感じています。（10名）

→→→ あたたかいお言葉、ありがとうございます。

■クラスのいじめや不登校などについて。（5名）

→→→ 担任が一人で対応するのではなく、学年や学校として解決するまで対応していきます。保護者の皆様への連絡を丁寧に行っていきます。

いじめについては、予防し、いじめが起こりにくいクラスにすることを目指しています。

概要は、学校だよりと共にお届けしているいじめ予防授業についての資料もご覧ください。

■経験の浅い先生など、子どもへの対応において多々懸念事項があり、授業だけでなく児童との接し方などもう少しサポート環境が整っていただきたいと思います。（3名）

→→→ 研究授業や研修により、授業力向上等に努めます。経験の浅い先生に限らず、担任がクラスを一人でさまざまな課題を抱え込まないように、適宜、校内の教員が入り込んで指導に当たるように努めています。

■この他にも、意見を言いやすい授業、体験学習、不適切な教師が逮捕や懲戒免職を受けるニュースに関するご意見等をいただきました。日々の学校生活の中で、気になることや疑問に感じるがありましたら、いつでもご連絡ください。（4名）

デジタル化（17名）

■学校からの配付物のデジタル化について。（7名）

→→→ さくら連絡網の導入により、吹田市全体で活用を推進しているところです。本校でもお手紙などの配付を紙からデジタルへと変えたことについては、賛否両方のご意見を伺っています。「いつでも見ることができる」「紛失なくていい」「環境にやさしい」という肯定的な声をいただいています。

保健だよりや長期休暇前の宿題を書いた学年だよりなど、子どもが読むものは基本的に紙で、保護者に向けたものは基本的にさくら連絡網で配信していきます。

■タブレットの使用頻度、学級閉鎖時のオンライン授業について。（5名）

→→→ タブレットについては、ふだんから文房具として使うことを目指しています。学校評議員の方に、タブレット導入時と比べれば、まったく授業が様変わりしましたね、との肯定的な声もいただいています。今後もっと使える場面はないか、研究を重ねていきます。長期欠席時には、必要に応じて授業を配信するよう努めます。なお、学級閉鎖では、健康の維持

と回復を目的とする期間ですので、オンラインでつなげたとしても全員が参加できないため、オンライン授業で学習を進めることはいたしません。

■ネット教育、タブレット使用のルールについて。（2名）

→→→ ネットの使い方についてはすべての学年で、授業の中で指導をしています。また、吹田市全小中学校で、ネットリテラシーを育む「デジタルシティズンシップ教育」を年に3回実施しています。タブレットは家庭で使う場合も、学習目的として使うことは変わりません。ルールについては、ホームページをご覧ください。

■学級閉鎖時の連絡は、学級や学年だけではなく、学校全体に通知してほしい。（1名）

→→→ 学級閉鎖時には、まず当該クラスにさくら連絡網にてお伝えし、その後、学級閉鎖のお知らせと注意喚起の連絡を「体調管理のお願い」というタイトルで学校全体の保護者にお伝えしています。

■この他、デジタル化やさくら連絡網の使い勝手等について。（2名）

→→→ これまで紙からでやっていたものを少しずつデジタルへ変えています。今後も可能なことを検討していきます。システム改善のご意見もいただきましたが、さくら連絡網は全市に関わることであり、すぐには難しい面もあるかと思いますが、ご意見を伝えます。

その他（22名）

■学校施設、遊具の改善について（2名）

→→→ 10月から学校管理の業者が一括管理するシステムに移行し、比較的スムーズに施設改善がなされるようになってきました。校内でも毎月安全点検を実施し、不具合の早期発見に努めて随時対応しています。

遊具については、以前に専門業者による遊具点検があり、現在の安全基準に照らして課題ありとされたものがありました。その後、課題ありの遊具は撤去し、今は新しい安全な遊具に更新され、子どもたちが楽しんでいます。遊具の配置や大きさは、定められた安全基準に準拠しています。

■PTAについて（2名）

→→→ お忙しいなか、PTA活動へのご協力、ありがとうございます。継続可能な形をPTAと協議し、よりよい形にしていければと考えています。

■体操服の長袖・長ズボンについて（2名）

→→→ 寒さの感じ方は個人差があります。必要な子どもには、体操服の上から1枚羽織るなど、個別に対応していただいています。詳細は学年だより等でご確認ください。

■欠席時、さくら連絡網で連絡しますが、連絡袋は預けるのか預けないのか、ルールが曖昧なので、今後全校統一でルール化していただければと思います。（1名）

→→→ 欠席の場合は、連絡はさくら連絡網のみで結構です。

また、連絡袋は原則預けていただくなくて大丈夫です。宿題の提出は、元気に登校してからでかまいません。当日のうちに学校から連絡しなければいけないことがあれば、電話等でお伝えします。その他、個別事情により対応します。

■下校時の校門前の外部学童保育等の送迎の車が横断歩道近くに駐車し、とても危険だと思います。（1名）

→→→ 警備業者と連携し、気をつけます。

■毎朝、ボランティアの方々が、通学路の横断歩道近くや歩道のない所などで、子ども達の安全を守ってくださっていて、とても感謝しております。それでもたまに下校途中などで、赤信号を走って渡ったり、危ないなと感じる光景を見かけることがあります。学校全体や各クラスで再度安全について話し合える機会を設けていただけますとありがたいです。（1名）

→→→ ボランティアの方には感謝いたします。登下校の安全について、全校集会やその他クラスでも折に触れて指導しているところではありますが、引き続き学校でも指導していきます。

■1年生の1クラスの人数が多すぎるように思います。スターターの先生方や桃組の先生が補助に来られていましたが、2年生では担任1人だと思しますので、可能なら6クラスにしていたらと思います。（1名）

→→→ クラスの人数は国の基準で定められており、それをもとに教職員が配置されますので、学校判断だけでクラスを増やすことができません。桃組の入り込みやその他の教職員で可能な範囲で対応していきます。

■宿題について。（1名）

→→→ 宿題は、今日習ったことを復習し、また家庭学習の習慣づけのために出しています。クラスで出される宿題は、最大公約数的にどの子にも必要とされる質と量を考慮しています。中学校等に進学すれば、小学校のように宿題があるからやる、というのではなく、子どもが自ら計画的に適宜家庭学習を進めていくことが求められます。ですので小学校でも、学年や子どもの実態等に応じ、自主学習を課題にすることもあります。

■置き勉について。（3名）

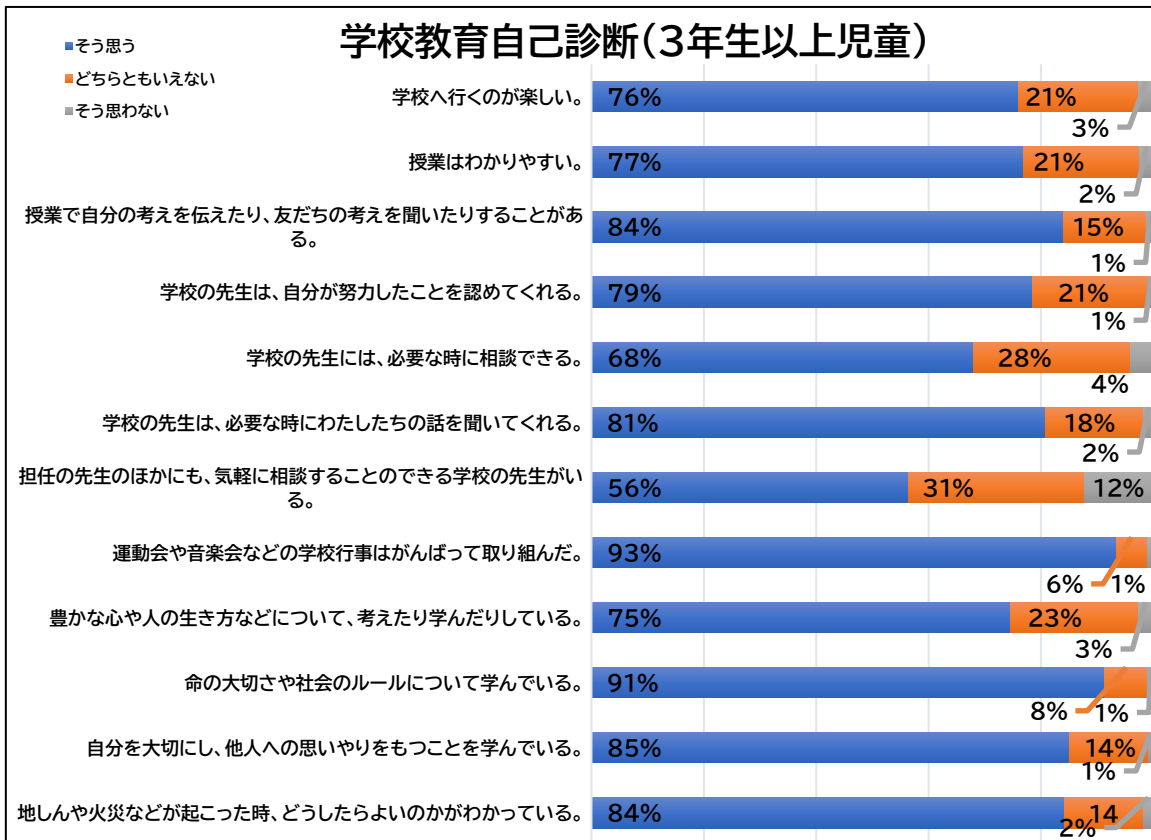
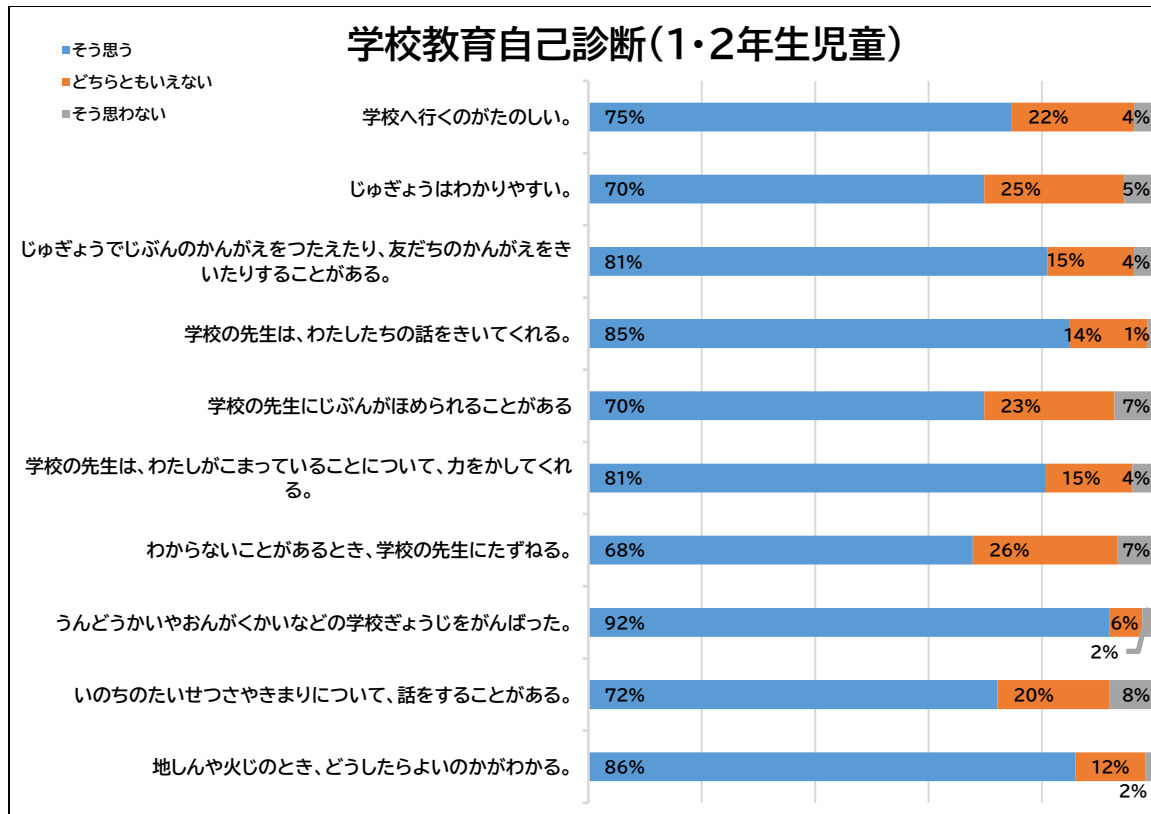
→→→ 子どもたちの発達段階を考えて、どこまでを持って帰らせるかを決めています。1年生についても置き勉を進めています。

なおタブレットは、文房具の一つとして、日々の使用が肝心です。国の方針でもあるため、家庭での宿題や、急遽翌日に学級閉鎖になったときの対応のためにも基本的に持ち帰ることにしています。

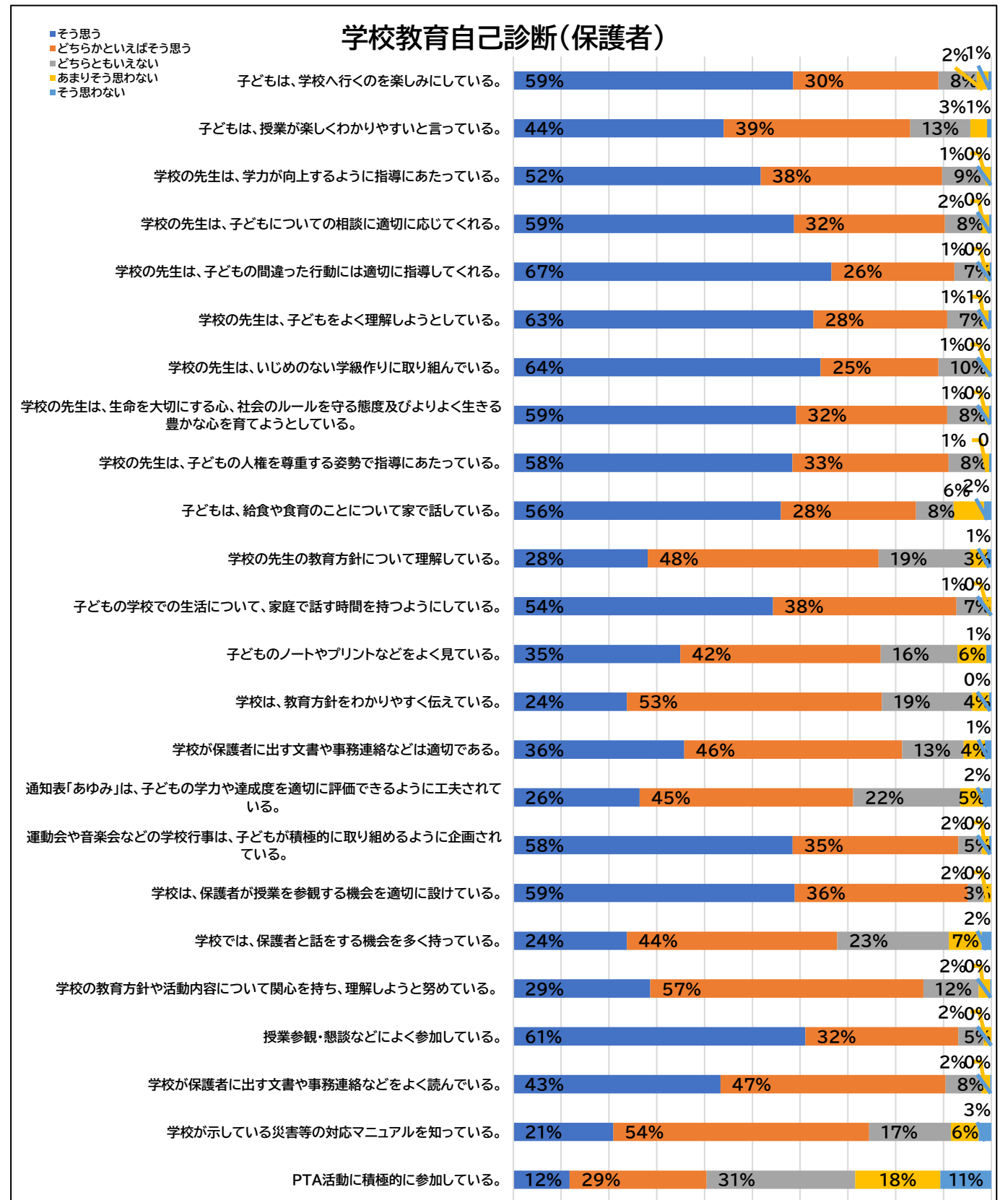
■この他にも特定の教員の指導の在り方や学校ブログ等についてご意見をいただいています。対象となる教員には校長から指導をしています。ありがとうございました。（8名）

余白

次のページに質問項目の結果とまとめを掲載しています。



* 発達段階を鑑み、低学年と高学年で質問項目を一部変えています。



* グラフ化にあたっての小数点以下の処理により、グラフ上の数値合計が100にならない場合があります。

【児童アンケートより】

○「学校行事はがんばって取り組んだ」が低学年 92%・高学年 93%といずれも全項目中最も肯定的回答が多い結果となりました。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類になったことから、学校行事の実施方法を見直してできることを積極的に実施していったことで、児童のやる気や自信につながったと考えられます。今後も、安全面の確保と学校規模を考慮しながら、よりよい行事のあり方や取り組みの進め方を考えていきます。

○「先生はわたしたちの話を聞いてくれる」の児童の肯定的回答率は、低学年 85%・高学年 81%と比較的高かったことから、主に担任と信頼関係が築けている児童が多いと考えられ、望ましい結果であると受け止めています。一方で、高学年の「担任の先生のほかにも気軽に相談できる学校の先生がいる」は56%となっており、担任以外に相談できる大人が学校でいないと感じている児童が少なからずいることがうかがえます。担任のみならず、学年や専科の先生、生徒指導主事、養護教諭、管理職、教育相談員などいろいろな人に相談することができるということを改めて児童にも知らせるとともに、教職員も自分のクラス・担当の児童だけでなく学校の児童みんなを学校の先生みんな育てていくという意識を再度共有していきます。

○「学校に行くのが楽しい」は肯定的回答が低75%・高76%でした。しかし、「楽しくない」と感じている児童も低4%・高3%いる事実を重く受け止めています。わかりやすい授業、仲のいい友達、楽しいクラス、がんばりを認めてくれる先生、やりがいのある行事、係や委員会活動などの役割、安心できる人間関係、おいしい給食など、児童が「学校が楽しい」と感じる要因は人それぞれだと思います。学校・学年・クラスでできるところから取り組みを進めて、「どちらともいえない」「楽しくない」と感じている児童に少しでも「学校が楽しい」と思うことを増やしていきたいと思います。

○「命の大切さやルールについて学んでいる」は低72%、高91%と学年によって大きく開きがありました。道徳の授業や人権学習、平和学習の取り組み、いじめ予防授業、デジタルシティズンシップ教育、各クラスや全校集会での生活の話など、学校としてすべての学年で実施していますが、この結果から低学年にはより伝え方を工夫する必要があることが明らかとなりました。低学年でも理解して心に残る学習となるよう、具体例を挙げて説明したり、自分だったら？と立ち止まって考えさせたりするなどの指導を工夫していきます。

○低「わからないことがあるとき先生にたずねる」の肯定的回答率は68%、どちらともいえないが26%、高「先生に必要なときに相談できる」肯定的回答率は68%、どちらともいえないが28%でした。いずれも、他の質問に比べて「どちらともいえない」が高い結果でした。この中には「特に聞きたいことがない」場合と「相談しようか迷う」という場合があると考えられます。何もなければよいのですが、なにかわからないことがあったときに気軽に相談できる関係づくり、先生に聞いたらわかるようになると思える対応を心がけていきます。

【保護者アンケートより】

●教職員に関する項目では、「学力が向上するように指導にあたっている」90%、「相談に適切に応じてくれる」93%、「間違った行動を適切に指導してくれる」93%「子どもをよく理解しようとしている」91%「豊かな心を育てようとしている」92%「人権を尊重する姿勢」91%、「いじめのない学級づくりに取り組んでいる」89%と、7項目とも多くの肯定的回答をいただきました。

一方で、「子どもが授業が楽しくわかりやすいと言っている」は83%となっています。この結果から、学力向上を目指す指導については一定ご理解いただいている中ではありますが、それが子どもにとっての楽しくわかりやすい授業につながっていない部分があるのではないかと推察されます。本校では国語科を中心に授業研究を進めていますが、全ての教科において、単元目標に応じて、タブレット活用、友達との交流、まとめや発表の形式、つまずきに対する手立てなどについてさらに研究を深め、学力向上と子どもにとっての楽しさ・わかりやすさを両輪で高めていける授業づくりを推進していきます。

●学校行事・授業参観の機会確保や保護者参加についての項目も肯定的回答率90%以上でした。今年度から人が集まることのできるようになったことで、児童のがんばる姿を直接ご覧いただく機会を増やすことができました。一方で、「学校では、保護者と話をする機会を多く持っている」の肯定的回答率は68%となっており、「参観する機会を適切に設けている」の95%と大きな開きがあります。今年度は、学校の予定としては5月と12月の個人懇談と、4月・9月・2月の学級懇談会を実施しました。それ以外でも担任等から必要に応じて連絡したり、保護者の方からご連絡いただいたりして個別の対応で保護者の方とお話しさせていただいております。

もしかしたら、報道等で教員の多忙化について取り沙汰されていることを鑑みて「これくらいのことで、先生に連絡するのも…」とご配慮いただいた方もいらっしゃるかもしれません。学校としては、子どもの成長のためには学校と家庭が情報や思いを共有して一緒に考えていくことがとても大切だと考えています。気になることや分からないことがあったら、早めにご連絡いただくことで気持ちやすっきりしたり連携して対応したりできることもありますので、ご遠慮なくご相談いただければと思います。

●「子どもと学校生活について話す時間を持つ」「学校からの文書をよく読んでいる」「学校行事や参観などによく参加している」についても90%以上の肯定的回答をいただきました。学校教育へのご理解ご協力、誠にありがとうございます。一方で、「学校が出す文書は適切である」は82%、「あゆみは適切に評価できるように工夫されている」は72%とやや低い結果となりました。さくら連絡網配信での文書発信については、記述式アンケートでも賛否両論がありました。ペーパーレス化は引き続き進めていきますが、目的に応じて紙配付も併用しながらわかりやすい情報発信に努めます。あゆみの形式については、引き続き校内で検討していきます。